

資源マップも更新中です

帯広市内と近郊の就労系障がい福祉サービス
事業所への聞き取りを随時進めています



令和3年1月13日(水)～15日(金)

就労継続支援 B 型事業所
ふれあい堂 (帯広市)

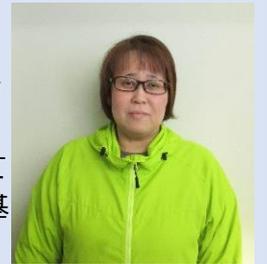
就労継続支援 B 型事業所
ゆうき (帯広市)

就労継続支援 B 型事業所
啐啄童子 (帯広市)

合同会社オンリワン

就労継続支援 B 型 ふれあい堂 (B 型)

昨年6月に開所された事業所には、利用者さん同士の口コミや相談支援専門員からの紹介などもあり、現在30名の方が登録されています。大半が女性利用者さんのため、細かい作業の小物作りや清掃の仕事に取組み、一日平均18名以上の方が利用されているとのことでした。精神障がいをお持ちの方々が大半を占め、昨年度末からの在宅ワーク(新型コロナウイルス感染予防のため)の体制をとっている中でも、比較的生活リズムを崩すことなく活動できているとのことでした。様々な生活背景や経済基盤をお持ちの方がいらっしゃる中で、生活の安定を重視され、一步進んだその先の活動や、一般就労などを視野に入れた動きにはなかなかつながらない現状の難しさをお話し下さいました。今後はそのような方々に対する一人一人のニーズの把握、就労意欲向上などのアプローチを含め、他の事業所との意見やノウハウをざっくばらんに交換できる横のつながりの必要性をお伺いいたしました。



サービス管理責任者の
浜田さんにご対応いた
できました。

一般社団法人ゆうゆう学舎

障がい者就労継続支援 B 型事業所 ゆうき (B 型)

事業所名の由来となっている有機農業における“共存共栄”の考え方がそのまま活動理念になっており、同じ空間の中での異なる作業活動や各工程をそれぞれが担当することによって、利用者さん同士が互いに意識し合える環境づくりを心がけられているそうです。今年度は催事に参加しての販売活動や余暇支援など事業所の外に出ることの制限が多くなっている中でも、活動時間の短縮はせずに、作業活動の内容を工夫しながら利用者さんにとって必要な日中活動の場所として開所されていたとのこと。一方で、自事業所の利用に限らず、ご本人の居場所づくりやステップアップに配慮し、他の社会資源の活用も視野に入れながら、利用者さんの日中活動をコーディネートする方法を考えられているそうです。聞き取りでは、個別性の高い支援をするために努力されながらも、現行制度における運営の難しさも語っていただきました。職員が日々の関わりから学び取る部分が多くなるような事業所にしていきたい、制度の勉強もしっかりとしていきたいと、今後の意気込みも聞かせていただきました。



代表理事の安達さん
にご対応いただきました。

有限会社アグリファクトリー

就労継続支援 B 型事業所 啐啄童子 (B 型)

B 型事業所立ち上げ以前、居場所づくりのために現拠点で野菜の袋詰めを障がいをお持ちの方にお願ひしていたことが活動の始まりとなり、現在では B 型事業所の他にも、コミュニティサロンや惣菜店、自立ホーム、ボランティア活動など、活動は多岐に渡っています。今年度当初の新型コロナウイルス感染拡大の中、早い段階で自発的に休所判断をしたり、利用者さんの精神的フォローに努められたようですが、一方活動の理念として、ご本人の自立する力を奪わないための関わりを常に意識されているそうです。「本人の“できる・できない”よりも、親御さんや支援者が“待てない・させない”ことがとても多い」という言葉どおり、基本的に通所は自力で行うという利用開始時からの取り組み、休みの連絡や担当作業の引き継ぎ方など、ステップアップにつながる様な具体的な目標を立てているとのことでした。利用中に就労と生活の両面で想定外のトラブルを経験することを通して、ご本人自身が身につけるべき力に気がつく・支援員と一緒に歩いていくことを大切にされているそうです。そういった丁寧な関わりから支援員も自分の目標を見つけて、事業所内での支援者会議を通じて、職員のステップアップを図ることにもつながっているとお話を伺いました。



管理責任者の中村さ
んにご対応いたしま
した。

今後も訪問を進めて参りますので、よろしくお願いいたします